令和７年度　寒河江市立陵南中学校　経営方針

令和７年度　スローガン（目指す学校像）

「生徒も教師も『安心してすごせる学校』の創造」

～　“生徒主体の活動”の充実と“わかる授業”の実施を通して　～

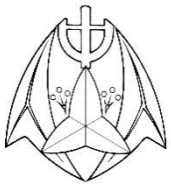
Ⅰ　はじめに

変動する社会にしなやかに対応し、夢の実現に向けて、主体的にたくましく生きる子どもを育成するために、建学の精神に掲げる「責任」・「信頼」・「誠実」の「３Ｓ精神」を貴び、教育目標の達成をめざす。

同時に、本校の大きな課題である「不登校生徒の増加」と、「主体的に学習に向かえない生徒の増加」に歯止めをかけ、改善を目指し、全教職員が教育活動にあたっていきたい。

Ⅱ　建学の精神　【３Ｓ精神】

○「責　任」（自己責任）　自分の行動に責任を持つ
○「信　頼」（相互信頼）　他とよく協力して信頼し合う
○「誠　実」（誠心誠意）　他を敬い真心を持って接する



Ⅲ　校風の樹立　『文武両道　学ぶ喜びに満ち溢れた学校』

Ⅳ　教育目標

１　教育目標

「夢の実現のために、主体的に考え行動する、心身ともにたくましい生徒の育成」

２　めざす生徒像

（１）自ら学び、活力があり、自立できる生徒　　（知）
（２）心豊かで、思いやりのある生徒　　（徳）
（３）心身ともに健康で、たくましく生きる生徒　　（体）

３　めざす教師像

（１）生徒とのふれあいを大切にし、生徒の考えや意見を尊重できる教師
（「師弟同行」「率先垂範」「啐啄同時」）
（２）自らに厳しく、進んで学び続ける教師（「自己理解」「自己管理」「日々研鑽」）
（３）経営参画意識を持ち、積極的に取り組む教師（「所属意識」「報・連・相・提」）
（４）心身の健康に配慮し、明るく、社会人としての礼節をわきまえた教師
（「礼儀・挨拶」「ワーク・ライフ・バランス」）
（５）凡事徹底を意識した上で、何事にもチャレンジ精神で取り組む教師
（「当たり前のことを当たり前に」「働き方改革」の遂行」）
（６）教育公務員としての責任を自覚し、常に危機管理意識を持つ教師
（「“まさか”は起こり得るという意識を常に持つ」）

Ⅴ　経営方針

１ 生徒主体の活動の場の充実を目指す

昨年行ってきた学級活動に加え、教育活動の様々な場で、生徒が主体となった活動の場を増やしていく。そうすることで、生徒指導の３機能（自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供）を生かす場が増え、生徒の自尊感情が高まり、人間関係が円滑になり、生徒が安心して過ごせる校内環境がつくられ、不登校の減少や、学力向上に繋がるものと考える。

２　「わかった」「できた」を実感させる授業づくりを目指す

どの学年においても定期テストの結果において、点数の二極化が見られる状況にある。学校を休みがちになった生徒の話には、「勉強がわからない」という思いが語られることも少なくない。

そこで、今求められている学力を念頭に置きながらも、「わからないから、できないから、もういい」と授業に参加することをあきらめる生徒を出さないことに重点を置いた授業を目指すようにする。学習ができるようになることを望まない生徒はいない。主体的に授業に向かうことができずにいる生徒を、授業に向かわせるため、「できた」「わかった」という思いを少しでも体験させることで、主体的な学習者を増やしていきたい。

３　教員の生徒・保護者理解の力量を高め、チームで対応する体制を構築する

生徒個々の「ニーズや困り感」を感じ取ったり見取るアセスメントの力をつけるとともに、生徒が話しやすかったり、相談しやすい教員となるよう研修に努めていく。また、いじめや不登校、問題行動等の未然防止と早期対応に向けて、教師が、生徒指導力と教育相談力、特別支援教育力を融合して活用していく力を持たなければならない。さらに、課題を解決し、生徒と保護者の身になって対応していくために、教師同士やＳＣ、外部機関や保護者などと協力するチーム支援体制を構築していく。

Ⅵ 具体的な施策

１　生徒主体の活動の場を増やす

①　安心してすごせる学級づくりのため、学級活動を重視する。
②　コミュニティタイムで、生徒会や自治会が様々な活動を企画できるようにする。
③　全校集会を定例化し、各委員会活動等の伝達の場とするなど、生徒が前面に出る活動を実施する。
④　全ての活動に於いて、生徒指導の三機能を意識した活動を仕組む。

２　「わかった」「できた」を実感させる授業づくりのために

①　授業に参加できない生徒等をそのままにしないため、授業の中で、必ず１度は対象となる生徒との関わりを作る。
②　学習したわかったことを実感させ、知識として定着させるため、なるべくその時間内に、学習した内容を使った確認の時間を位置づける。
③　教師が「教える」授業と生徒に「考えさせる」授業を、明確に意識した単元計画を持つ。
④　学級の状態に応じて、「協働的な学び」と「個別最適化された学び」を位置づける。ただし、それらの学習形態と、教師が教える時間のバランスを考え実施する。

３　教員の生徒理解の能力を高め、チームで対応する体制を構築するために

①　陵南型ケース会議を推進する
②　適応教室（シャイン）を効果的に活用する
③　特別支援教育への理解の推進を図る
④　教員の働き方改革を推進し、万全の体制で生徒指導に当たれる環境をつくる。

Ⅴ その他

１　地域展開を見据えた部活動改革の推進

①　寒河江市の段階的な改革案に沿い、取り組みを確実に実施する。
②　市教育委員会と連携し、生徒の受け皿となる活動団体の設立に協力する。
③　部活動のねらいを焦点化し、効果的な指導方法を工夫する。

２　コミュニティタイムの効果的な運用

①　木曜を５時間とし、放課後は原則、地域から生徒に情報を伝える場として活用する。
②　学級や学年、生徒会の活動にも使える時間とする。
③　学校運営協議会による広報と評価を実施する。

３　朝学習の時間の活用

①　基本的には読書の時間とするが、学期に１回、「ブックラブおもだか」による読み聞かせを実施する。
②　週に１回の割合で、基礎的な知識の定着やリーディングスキルを高めるための「学習」の時間を設ける。